

《トークイベント》

平昌2018冬季オリンピック・パラリンピック、サッカーワールドカップロシア大会、夏季アジア競技大会。今年も、スポーツが世界中の人々の心を揺さぶりました。滴る汗、滲む涙、溢れる笑顔に歓喜の輪、そして“鼓動”。スポーツシーンの記憶は観る者の心を捉えて離しません。

AJPSメンバーも皆、スポーツに魅せられたひとりです。世界のさまざまな現場に足を運び、カメラを構え、アスリートの声に耳を傾ける。メンバーが日々感じている現場の鼓動を伝えるべく、スポーツ報道写真の展示及び全8回のトークイベントを開催します。

日本スポーツプレス協会 (AJPS)

一般社団法人日本スポーツプレス協会 (AJPS/Association Japonaise de la Presse Sportive) は、国内外の第一線で活躍するフリーランスを中心としたスポーツジャーナリストたちが「職能の確立、表現及び報道の自由に努め、日本スポーツ界の発展に寄与すること」を目的として1976年に創立されました。当協会は、海外在住会員を含め184名の会員と賛助会員19社(2018年11月時点)によって構成され、あらゆる角度からスポーツを捉え、多種多様な取材活動を展開しております。現在フリーランスのスポーツジャーナリストが国際スポーツプレス協会(AJPS/Association Internationale de la Presse Sportive)へ加入できる唯一の団体です。

2018年11月9日(金) - 14日(水)

11:00-19:00 木曜休館日 最終日15:00まで

会場：オリンパスプラザ東京

【地下歩道からのアクセス】

新宿駅西口地下改札口を出た地下ロータリー左側の明治安田生命側の道を都庁方面に直進。地下歩道上部に「エステック情報ビル」に表示あり。徒歩5分。

都営大江戸線都庁前駅 B1出口から地下歩道をJR新宿駅方面に進む。地下歩道上部に「エステック情報ビル」の表示あり。徒歩4分。

11月10日(土)

13:00 ~ 生島 淳 Jun Ikushima



「スポーツが好きだから、撮る、書く」

1967年宮城県気仙沼市に生まれる。1990年早稲田大学社会科学部卒業後、博報堂に入社。勤務と並行してライターとして活動し、1999年スポーツライターとして独立。著書に『エディー・ジョーンズとの対話』『箱根駅伝』など。出演番組にTBSラジオ『日本全国8時です』(土曜)に出演中。今回のトークイベントでは、敬愛する写真家の藤田孝夫氏と対談。
◀【橋本篤 撮影】

15:00 ~ 竹澤 哲 Satoshi Takezawa



「クリスティアーノ・ロナウドは幸せになったのか？」

スポーツジャーナリスト。大学卒業後、8年間にわたりポルトガル、スペインに滞在。帰国後、通訳・翻訳の仕事を経てスポーツジャーナリストに。南米、ヨーロッパサッカーをテーマに多数寄稿。訳書に『エピソードの真実』『監督の条件』『ネイマール：父の教え、僕の生きかた』。著書に『フォルツァ! アレックス』『ジンガブラジリアンフットボールの魅力』などがある。2018年4月には15年間の取材の集大成である『クリスティアーノ・ロナウド 生きる神話、知られざる素顔』を上梓した。

17:00 ~ 薬師洋行 Hiroyuki Yakushi



「オリンピックと祇園祭」

富山県出身。京都外国語大学、東京写真専門学校卒業。国際スポーツプレス協会、日本スポーツプレス協会会員。1969年スキーW杯を初取材以来、現在も継続中。1972年札幌五輪以降、平昌五輪まで冬季13回、夏季4回を取材。その他、世界選手権など世界のスポーツシーンを取材。2012年、FIS(国際スキー連盟)ジャーナリストアワード受賞。

11月11日(日)

13:00 ~ 増島みどり Midori Masujima



「日本のスポーツ界に続く不祥事 東京に向けどう取り組むか」

スポーツ紙から1997年独立。サッカーW杯、夏季・冬季五輪等を取材する。1998年W杯日本代表39人の証言集『6月の軌跡』でミズノスポーツライター賞受賞。今年6月、再び39人を取材し『日本代表を、生きる。』を上梓。

15:00 ~ 宮崎恵理 Eri Miyazaki



「パラスポーツが見つめる2020東京、その先の未来」

東京都生まれ。出版社勤務を経て、フリーになる。1998年の長野パラリンピックから障がい者スポーツの取材に携わり雑誌、インターネットを中心に執筆。2012年ロンドン・パラリンピック、2014年ソチ・パラリンピックではNHK開会式中継解説を担当。著書に『心眼で射止めた金メダル』(新潮社)、『希望をくれた人』(協同医書出版社)。近著に『みんなちがって、それでいい!』(ポプラ社)。

17:00 ~ 杉山茂樹 Shigeki Sugiyama



「旅とスタジアム論」

スポーツライター、スタジアム評論家。静岡県出身。大学卒業後、取材活動をスタート。得意分野はサッカーで、FIFA W杯取材は、2018年ロシア大会で連続10回現地取材となる。五輪も夏冬併せ9度取材。モットーは「サッカーらしさ」の追求。著書に『ドーナ以後』(文藝春秋)、『4-2-3-1』(バサル対マンU) (光文社)、『3-4-3』(集英社)、『日本サッカー偏差値52』(じっぴコンパクト新書)、『負け』(向き合う勇氣) (星海社新書)、『監督図鑑』(廣済堂出版)など。最新刊は、『SOCCER GAME EVIDENCE』(36.4%のゴールはサイドから生まれる) (実業之日本社)。

11月12日(月)

17:00 ~ 矢内由美子 Yumiko Yanai



「世界体操2018の結果から東京五輪を占う」

北海道大学卒業後、スポーツ新聞記者を経て、2006年からフリーのスポーツライターとして取材活動を始める。サッカー日本代表、Jリーグのほか、体操、スピードスケートなど五輪種目を取材。日本スポーツプレス協会会員。スポーツグラフィック Number『Olympic Road』コラム連載中。

11月13日(火)

17:00 ~ 山口和幸 Kazuyuki Yamaguchi



「ツール・ド・フランス現場雑感」

ツール・ド・フランス取材は1989年から。東京中日スポーツなどに自転車記事を書いた。アジア選手権など国内の国際大会では広報を歴任。著書に『講談社現代新書 ツール・ド・フランス』。

*トークイベントは入場無料です。各回1時間程度を予定しております。
*入場は各回イベント開始15分前よりご入場いただけます。
*お席座はイベントごとに入れ替えとなり、席数は30座席で先着順にてご案内いたします。

*混雑状況によっては立ち見での聴講をお願いしたり、入場を制限させていただく場合がございます。
*登壇者・内容については、予告なく変更になる場合がございますのでご了承ください。
*詳細はAJPS webでご案内しておりますのでご確認ください。AJPS web <http://www.ajps.jp/>